

## 都留の野ぼとけ(一)

### 巡礼供養塔

鈴木茂治

#### 野ぼとけさま

今年の『郷土史シリーズ』は、ふるさとの路傍に数多く残されている「野仏」をテーマにしてみました。

市内のお寺やお宮、各地域の辻や峠道などには、まだ、たくさん石造物が残っています。これらの石造物のうち、とくに、道ばたの草むらや石ころの間などに、今もひっそりと、忘れられたように立っている石の仏さまを「野ぼと

け」と呼んでいます。

時の流れとはいえ、かつてそこに生きた先祖たちの、祈りの対象となっていた道祖神や庚申塔、それに地藏さまや観音さまたちの、優しくあたたかなお姿や心を、私たちは生活の中からすっかり遠ざけてしまいました。

さて、春四月。草木も花も小鳥たちも、待ってましたとばかりに春を謳歌しているので、野ぼとけさまも、きっとお目ざめのことでしょう。



田野倉・三嶋神社(先の宮)の巡礼供養塔

どうぞ皆さん、おだやかな陽光を浴びながら、身近な野ぼとけさまに逢いに参りましょう。もの言わぬ「野ぼとけ」の中から、深遠な声を聞き出して、ふるさとのよさや、祖先の尊さをあらためて考えることができれば、それこそ、野ぼとけさまの功德と申すものでしょう。では、手始めは、

#### 巡礼供養塔

平安時代の末ごろから、全国の有名な

霊場(寺社などの特別な聖地)へお参りする巡礼(札所めぐり)という行事が始まりました。各地ごとに巡拝コースが定着した江戸時代が全盛期でしたが、四国八十八カ所巡礼などは、今も盛んに行われています。

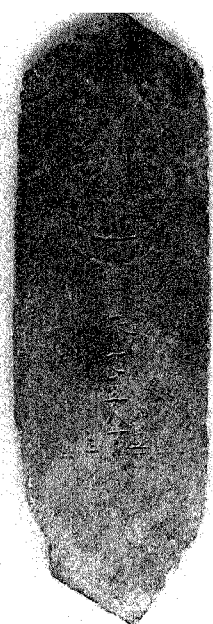
巡礼者は笈摺(着物の上に着る袖なし)など所定の服装で霊場をめぐり、苦勞を重ねてお札や宝印などを受けてまわりました。無事帰国すると、その満願成就を記念し、先祖の霊を慰め、村びとや親類への報告も兼ねて、近くの道ばたなどへ巡礼供養塔(巡拝塔)を建てました。

現在、市内には十五基の巡拝塔が残されていて、そのほとんどが古道ぞいに立っています。

写真の巡拝塔は、田野倉の三嶋神社前に二つ並んで残っているものです。碑文は右側が「天下和順廻国千人供養塔、明和七(一七七〇)寅歳霜月二日、施主中村半兵衛、左側が「坂東・西国・秩父巡礼供養塔、明和二(一七六五)酉年十二月日、施主小俣氏・都倉氏同行四人」と彫ってあります。左の塔に札所数を書いてありませんが、これは、坂東(関東)三十三カ所・西国(近畿)三十三カ所・秩父(埼玉)三十四カ所で、合計が百カ所となるように、秩父だけが一カ所多くなっているのだそうです。

## 都留市有形文化財に

### 『小山田家伝世の板碑』、『広教寺文書』が新たに指定



小山田家伝世の板碑

#### 「小山田家伝世の板碑」

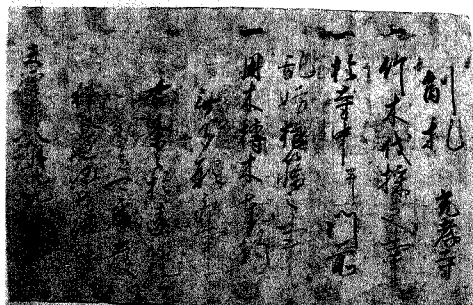
る。

関東系の緑泥片岩を用いた板碑で、頭部は山の形をしており、身体にはその上部に本尊の種子キリク(阿弥陀如来を表したものの)、下部には紀年銘「応永二年(一三九五)三月十五日」が刻まれている。全長五一・五センチ、幅一六センチであり、室町時代初期の貴重な板碑である。この板碑は中世期に小山田家によって宝地区の桂林寺に寄進され、祀られていたもので、戦国時代末期の混乱期に小山田家の管理下におかれ現在に至ったと伝えられる。

その内容は、天正十年(一五八二)十一月二十三日、鳥居元忠が出した「寺中門前並山林伐採狼藉停止」の制札をはじめとして、江戸時代初期の寺領寄進状など貴重な史料であり、また、秋元喬朝や、秋元氏の家臣高山伝右衛門、田中八兵衛などの書簡である。

#### 「広教寺文書」

広教寺文書は総数四十九点でこれら文書は「御黒印書付併御水牒篋」と記された桐箱に三十一点、「大幡山用」と記された桐箱に十八点が収められ、保存されてい



広教寺文書